

北大病院心エコー室で検査を受けた患者さんまたはご家族の方へ

（臨床研究に関する情報）

北海道大学大学院 心エコー検査室では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、北大病院において、通常の診療で得られる診療記録や検査結果を分析することによって行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の連絡先へご照会ください。

[研究課題名] 最先端のイメージングを用いた三尖弁閉鎖不全症の逆流重症度評価法の確立

[研究機関・長の氏名] 北海道大学病院 渥美 達也

[研究責任者名・所属] 加賀 早苗（北海道大学病院 超音波センター・准教授）

[研究の目的]

心臓病とは、心臓の構造や働きの異常により生じる病気の総称で、その中に、心不全、冠動脈疾患、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、先天性心疾患などがあります。心臓病は、悪性新生物（がん）、脳血管疾患（脳卒中）と並ぶ日本人の三大死因のひとつで、世界の中でも類まれな高齢化社会を迎えている日本において、その患者数は急増しています。

社会の高齢化とともに、心臓弁膜症の患者数も急増しており、今後、ますます増えることが予想されています。心臓弁膜症（本研究では三尖弁閉鎖不全症の患者さんを対象とします）の重症度や手術適応の評価には、安全で繰り返し検査することができる心臓超音波（心エコー）検査が広く用いられています。しかし、三尖弁はとても複雑な構造をしているため、いまだ三尖弁閉鎖不全症に対する精度の高い重症度評価法はなく、新たな手法の考案が望まれています。そこで、私たちは、三次元経胸壁心エコー法という最先端のイメージング技術を用いることで、三尖弁閉鎖不全のより正確な重症度評価を行えないかを調査したいと考えています。この研究により、三尖弁閉鎖不全の重症度評価をより正確に行えるようになれば、治療介入時期の決定、治療選択ならびに治療効果判定の精度向上に寄与し、弁膜症治療の質の向上につながると考えております。

[研究の方法]

●対象となる方

2022年4月から2029年3月までの間に、北海道大学病院で心エコー検査を受けた患者さんのうち、中等症以上の三尖弁閉鎖不全症が認められた患者さん。

●利用するカルテ情報

- 診療記録から、年齢、性別、身長、体重、診断名、病歴、家族歴、身体所見、血液生化学的検査結果、血漿中の脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）濃度、N末端プロB型ナトリウム利尿ペプチド（NT-proBNP）、臨床経過ならびに治療内容を調査させていただきます。
- 心エコー検査記録から、一般的心エコー指標に関する情報および三次元心エコー法による三尖弁閉鎖不全症の重症度指標と三尖弁複合体の構造に関する情報を調査させていただきます。

[研究実施期間]

病院長による実施許可日～2030年3月31日（登録締切日：2029年3月31日）

[個人情報の取り扱い]

この研究に関して、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

本研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、ご住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果を学会や学術雑誌などに発表する予定ですが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[連絡先]

札幌市北区北12条西5丁目

北海道大学大学院保健科学研究院・准教授 加賀 早苗（研究責任者）

電話：011-706-3403

北海道大学大学院保健科学研究院・助教 村山 迪史（研究分担者）

電話：011-706-5755